

## 第5学年 バケツ稲の育て方

### (1) 田植え前まで

「植物の発芽と成長」の学習で使用した物、あるいは5月中旬くらいに植えた物を使用する。苗はバケツ1つ当たり15株程度使用するので、予備を含めて20株程度あれば良い。

**準備物**：発芽し、10～15cm、葉が2～3枚程度出た苗。花と野菜の土。畑の土。

13L程度のポリバケツ。

### (2) 田植え（5月下旬から6月上旬）

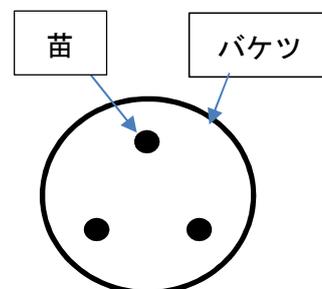
①バケツに「花と野菜の土」を7分目くらい入れ、その上に畑の土を深さ2cm位入れる。（畑の土はなくても育つが、植えてからしばらくは、苗が水の上に浮いてきてしまう。）

②同じくらいの背丈の苗を3～5株を一まとめにして、図のように植える。（親指の長さくらいの穴を開け、埋めを戻した後にまとめて自立できるよう、少しだけ土寄せをする。）

※この段階で種籾を直まきしても良い。その場合は、5月20日前後まく。その際に2cm程度の深さに5～6個の種籾を図の位置にまく。

③深さが3～5cm程度になるように水をはる。

④日当たりや風通しが良い場所に置く。



### (3) 水の管理（6月～7月上旬）

日光が良く当たる場所に置き、水をかかさないようにする。また、水を入れたときに苗が倒れてしまっていないか確認する。背丈が伸びると共に、少しずつ分けつして、株の数が増えていく。（最終的には40株程度になる。）

### (4) 中干し・追肥（7月～8月上旬）

30℃を超えるくらいの気温になると、土の中の酸素が不足し、根が腐ってしまう。そのため、それを防ぐための「中干し」という作業をする。これは、土の表面が乾き、ひび割れがおきるまで水をやらないことを指す。バケツ稲のため、日当たりや風通しが良く、雨が当たらない場所に移動すると効率よくできる。

中干しには以下の効果がある。

- ・土の中の有害なガスを出す。
- ・酸素を供給する。
- ・根腐れを防止し、根を丈夫にする。

やり方は以下の通り。

①中の水を抜き、2～3日置いておく。土が乾いていない場合はさらに2～3日置き、土の表面が完全にひび割れるまで乾かす。（手間を惜しむ場合は水を抜かないで乾かしても良い。）

②2cm程度の水が貼るくらいまで少しずつ水を入れる。このときに一気に水を入れてしまうと根が酸素不足になって枯れてしまうので少しずつ入れるようにする。2分程度で土が水分を吸収して見えなくなるので、再び水を少しずつ入れ、最終的に5cm程度の深さになるようにする。また完全にひび割れができるまで乾かす。（この段階で1学期終了くらい）

※中干しはやり過ぎても枯れてしまう。学校で1～2回行い、残りは夏休み中に児童に持ち帰らせて行わせるが良い。

③窒素、リン酸、カリウムの配合割合が同程度の物（8：8：8など）を一握り入れる。

#### (5) 水の管理（8月）

高温で蒸発量も多いが、稲にとっても最も多くの水を必要とする時期なので、深さが5cmを下回らないように頻繁に水やりをする。

#### (6) 水の管理（9月）

このころになると水はあまり必要なくなる。少しずつ水の量を減らし、9月15日頃からはもう水をやらないようにする。



#### (7) 稲刈り（10月）

- ①稲刈り2～3日前には雨の当たらない部分に移動させておく。
- ②補の部分から下20cmくらいの所を、はさみで刈っていく。
- ③室内でも良いので、2週間程度日当たりの良いところでさらに乾かす。

#### (8) 脱穀例

**準備物**：茶碗。入れ物。

穂を1房、裏側にしたお椀に入れ、お椀を押さえたまま茎側に引っばる。すると簡単に脱穀できる。十分に乾かして、茎から完全に水分がなくなってから脱穀した方が脱穀しやすい。

#### (9) 粳すり例

**準備物**：すり鉢。軟式野球ボール（公式用）

10粒程度をすり鉢に入れ、ボールでこすることで粳が外れる。



バケツ1つ分で収穫した稲穂



粳すり

#### <成果>

○今年度は、1つのバケツで55gの玄米が収穫できた。この玄米はクラスで炊いてみんなで食べた。（精米は家庭用精米機を使用したけど、瓶と棒を使って精米する方法もある。）「自分が作った米」ということで、達成感と満足感を持たせることができた。

○初めての米作りなのはもちろん、地域に水田がないために米作り自体になじみがないため、社会科と横断的な学習をすることができた。

#### <課題>

○夏休み中の世話を家庭に依存することになるため、進捗状況を把握しにくい。